

テーマ展示.....テーマ展示室

テーマ展示室は、館蔵品を中心にテーマ毎に展示する部屋です。常設展示では展示されない多くの館蔵品を、様々なテーマでタイムリーな展示を年3回行っています。

※特別展期間中は除く

特別展.....第2展示室・テーマ展示室

大分の歴史に関する資料を全国から集めて展示を行う「特別展」を年1回開催しています。

学習コーナー

歴史に関する本を置いたコーナーがあります。ご利用ください。

豊後国分寺跡史跡公園のご案内

資料館の東側には、国指定史跡豊後国分寺跡（昭和8年指定）があります。

国分寺とは奈良時代に、仏教の力を借りて国を治めるために聖武天皇によって建てられた寺です。奈良時代の豊後国分寺はおおよそ東西182m・南北300mの広さを有し、門・七重塔・金堂・講堂・食堂の建物が南北に並ぶように建っていました。

現在は、史跡公園として整備されていますので、資料館を見学したあと、史跡公園も訪れてみてください。



資料館の活動について

大分のあけぼのから近世までの通史展示とくらしの道具、農機具などの常設展示を行うほか、大分の歴史に関するビデオを視聴するコーナーや学習コーナーを設けています。この他に以下の活動を行っています。

- 特別展・テーマ展示の開催
- 資料館ニュース、展示図録等の発行
- 各種講座（歴史講座・体験講座など）の開催
- 出張歴史教室
- 歴史・民俗資料の収集と保管等

※くわしくはホームページで

大分市歴史資料館 収蔵品

検索

ご利用案内

- 開館時間 9時から17時（入館は16時30分まで）
- 休館日 月曜日 但し祝日の場合は開館
また第1月曜日は開館し、翌火曜日が休館
祝日の翌日 但し土・日曜の場合は開館
年末年始 12月28日～1月4日
- 観覧料 大人 200円(団体150円) 高校生 100円(団体50円)
中学生以下 無料 ※団体は20名以上
※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方とその介護者は無料。
◎入館時に受付で手帳を提示してください。
※特別展開催中は別料金となる場合があります。



交通機関

- ・JR久大本線
豊後国分駅下車
徒歩2分
- ・大分自動車道
大分IC・光吉IC
よりともに約15分

大分市
歴史資料館

- 住所 〒870-0864 大分市大字国分960-1
- TEL 097-549-0880
- FAX 097-549-5766
- URL 大分市ホームページ(<http://www.city.oita.oita.jp/>)
の「観光・魅力」歴史・文化を学ぶ>大分市歴史資料館」

大分市
歴史資料館

大分市歴史資料館
OITA CITY HISTORICAL MUSEUM



大分市歴史資料館全景

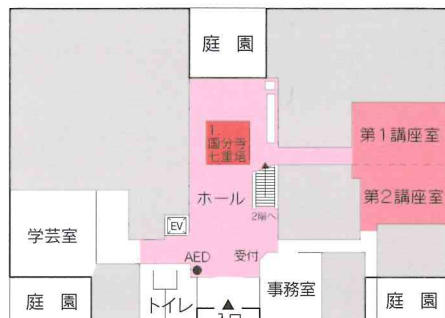


常設展示

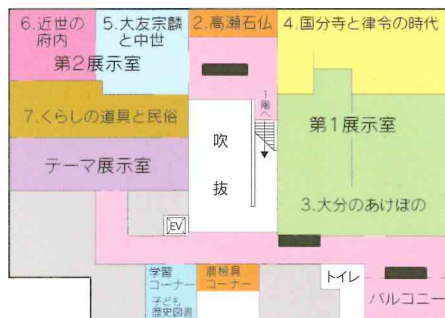
展示の主なみどころをまとめています。郷土大分に育まれた歴史や文化をごゆっくりお楽しみください。

※資料保存等のため、一部展示品が変更になる場合があります。

1階



2階



お願い

- 他の観覧者に迷惑のかからないよう静かにご覧ください。
- 展示資料にお手を触れないでください(一部除く)。
- 館内での喫煙・飲食はご遠慮ください。
- 写真撮影はご遠慮ください。

1. 国分寺七重塔.....1階ホール



くに はな 国の華とされた豊後国分寺七重塔の精密な模型を展示しています。今も国分寺跡に残っている礎石や古い記録、現存する塔などをもとにして設計し、10分の1の大きさと製作したものです。

2. 高瀬石仏.....2階ホール



大分は磨崖仏の宝庫です。市内各地に点在する磨崖仏の中でも、高瀬石仏は体にヘビを巻きつけた深沙大将というめずらしい仏像が彫られていることで有名です。展示品は原寸大のレプリカです。

3. 大分のあけぼの.....第1展示室



海山の幸を求めて大野川や大分川を望む台地に人々が住みはじめた頃から、米づくりのムラが広がり、青銅器が使われた時代。さらに大規模な古墳を築いた時代が年表にしたがって通観できます。

4. 国分寺と律令の時代.....第1展示室



奈良時代に、仏教の力で国を治めるために建てられた豊後国分寺の全体復元模型からは当時の壮大な様子をうかがうことができます。また遺跡や遺物、木簡などの資料から律令時代の豊後を紹介しています。

5. 大友宗麟と中世.....第2展示室



ゆれ動く乱世に生きた大友宗麟を中心に、ザビエルの来訪をきっかけに広まったキリスト教や西洋文化、また南蛮貿易で繁栄した豊後府内の町の様子などを紹介しています。

6. 近世の府内.....第2展示室



笠和口門をくぐると江戸時代です。当時は小藩が分立し諸藩の飛び領が複雑に入りまじっていました。府内藩では、万治元年(1658)松平ただあきらが府内城に入り、以後廃藩置県まで大給松平家が藩主でした。

7. 暮らしの道具と民俗.....第2展示室



ここでは、大分市の民俗行事や、暮らしの道具を中心に展示しています。明治から昭和にいたるまでの、日常の道具の変化や私たちの生活様式の移り変わりを紹介しています。